

川に関連した経験の有無による川の印象の違い

宮城県仙台二華高等学校 非会員 ○佐藤 朱夏
 東北大学大学院工学研究科 学生会員 柳原 駿太
 東北大学大学院工学研究科 正会員 風間 聡
 宮城県仙台二華高等学校 非会員 庄子 俊男

1. はじめに

近年、若者の自然離れはインターネットの普及とともに著しいものとなっている。Soga・Gaston¹⁾によると、多くの先進国で自然離れが起こっていることが分かった。そのような現状から抜け出すために、若者の川の人気向上を図る必要がある。川の人気は人々が持つ川の印象に左右されると考えられる。そこで本研究では、中高生の川に関連した経験の有無を調査し、その経験による川の印象の違いについて調べる。

2. 研究対象

宮城県の中高生 351 人を対象にした。

3. 調査方法

Google forms を用いてアンケート調査を行った。表-1 に示す 8 つの形容詞対を用いて、5 段階の SD 法により川の印象を調査した。具体的には、「行ってみたい⇔行きたくない」という形容詞について、「行ってみたい」が非常にそう思う場合は 1、「行ってみたい」がややそう思う場合は 2、どちらともいえない場合は 3、「行きたくない」がややそう思う場合は 4、「行きたくない」が非常にそう思う場合は 5 を選択する形式でアンケートを行った。また、川に関連したレジャー（川遊び、釣り、BBQ など）の経験の有無、川の掃除経験の有無、水害経験の有無、性別も調査した。各形容詞対について平均値を求め、川に関連した経験の有無および性別による川の印象の違いを考察した。

表-1 アンケート調査に用いた形容詞対

行ってみたい	行きたくない
重要な	重要でない
整備された	未整備な
不快な	こちよ
そばに住みたくない	そばに住みたい
きれいな	きたない
好き	嫌い
安全な	危険な

4. 結果

4. 1 レジャー経験の有無に関して

この結果を図-1 に示す。実線が経験あり、点線が経験なしを示している。「不快な⇔こちよ」の項目で一番大きな違いが見られた。加えて、経験ありの方がすべての項目でポジティブなイメージを持っていることが分かった。

4. 2 川の掃除経験の有無に関して

この結果を図-2 に示す。実線が経験あ

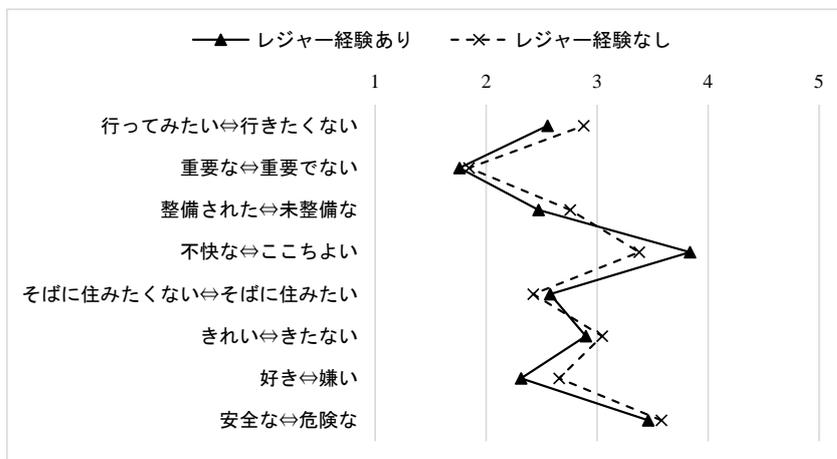


図-1 レジャー経験の有無による川の印象の違い

キーワード アンケート調査, 川のイメージ向上, 川に関する体験

連絡先 〒984-0052 宮城県仙台市若林区連坊1丁目4-1 宮城県仙台二華高等学校 TEL: 022-296-8101

り、点線が経験なしを示している。「行ってみたい⇔行きたくない」、「きれい⇔きたない」、「好き⇔嫌い」の項目では差がほとんど見られなかった。また、掃除経験があるにもかかわらず、「重要な⇔重要でない」の項目では経験ありの方が重要でないイメージに寄っていることが分かった。

4. 3 水害経験の有無に関して

この結果を図-3に示す。実線が経験あり、点線が経験なしを示している。「そばに住みたくない⇔そばに住みたい」、「安全な⇔危険な」の項目から分かるように、経験なしの方が慎重なイメージを持っていることが分かった。

4. 4 性別の違いに関して

この結果を図-4に示す。実線が女性、点線が男性を示している。「重要な⇔重要でない」の項目を除いて男性の方が川に対して積極的かつポジティブな印象を持っていることが分かった。「行ってみたい⇔行きたくない」の項目ではほとんど差が見られなかった。

5. まとめ

川に関連した経験の有無が川の印象に与える影響を調べるためにアンケート調査を行った。川の印象は8つの形容詞対を用いたSD法により評価した。本研究では、川に関する経験の有無による川の印象の差について、有意差の検定を行っていない。今後は、有意差の検定を行う予定である。

謝辞

本研究は、三菱みらい育成財団の助成を受けたものです。ここに深く感謝の意を表します。

参考文献

1) Soga, M. and Gaston, K. J.: Extinction of experience: the loss of human-nature interactions, *Frontiers in Ecology and the Environment*, Vol.14, Issue 2, pp.94-101, 2016.

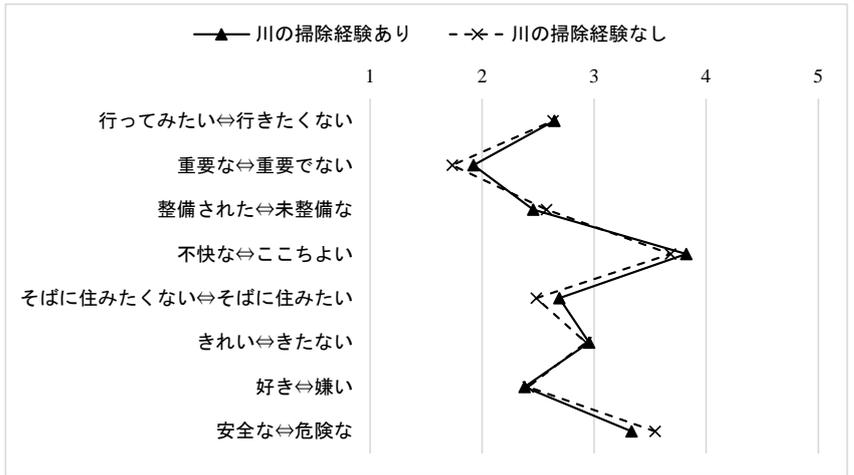


図-2 川の掃除経験の有無による川の印象の違い

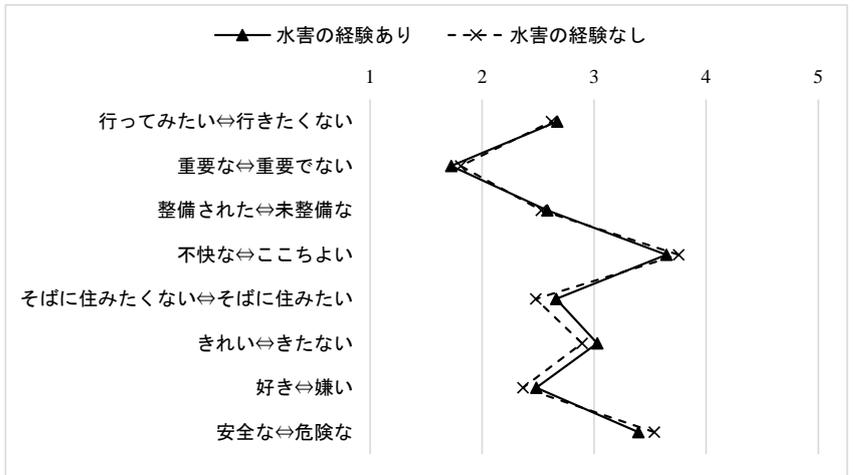


図-3 水害経験の有無による川の印象の違い

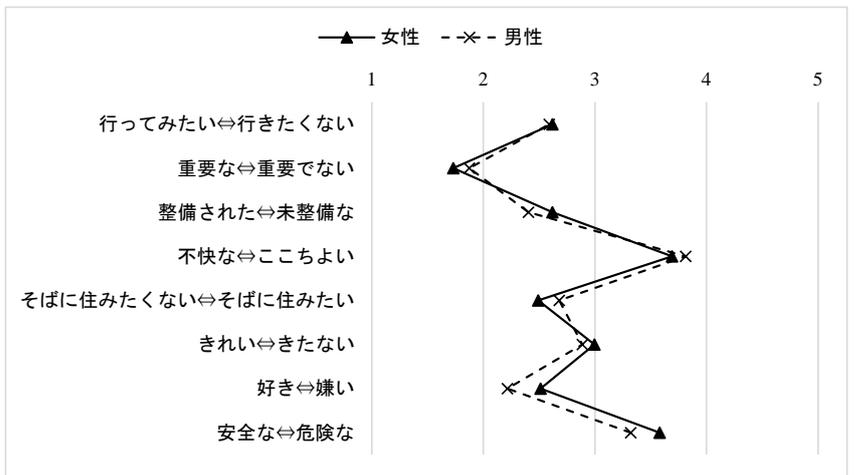


図-4 性別の違いによる川の印象の違い